

Eternity

2012 年度 3 学期卒業式メッセージ

「- 永遠 - 永遠が私達の存在を決める」

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。」伝道者 3 章 11 節

ゲスト講師メッセージ

平凡な人生の価値

「2 代目後継者 イサクの人生」

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン 聖書学院

2013.4・5月号 NO.151

2012年度3学期卒業式メッセージ - Eternity-

「永遠」

— 永遠が私達の存在を決める —



横浜グレイスバイブル
チャーチ牧師

スコット・ダウマ師

■著名な英国の作家 C.S. ルイスはこう言いました。「『永遠』が私たちの存在を決める。」この事を一緒に考えて見ましょう！

無神論者にとって『永遠』というものは存在しません。もし仮に永遠などなく、死後の世界には何も起こらないと考えるなら、今、生きているうちは善悪などは気にせず、一生懸命遊んで暮らしてもかまいません。何故なら将来などはないからです。だから結局、未来の為に「環境を守ろう！」なんて意味のないことです。でも私達は違います。

■伝道者の書3章11節には「神はまた、人の心に永遠を与えられた。」とあります。

人の心には神様から「永遠」という思い、「永遠」という考え、「永遠」というDNAが与えられています。どんな国に行っても「永遠」という概念がそこにあります。死んだ後にも何かが存在する。多くの人がそれを感じています。無神論者と自認する人でさえ、ある面でそう感じています。そうでなければ、なぜ自分の子どもを大切にするのでしょうか？なぜ自分の周囲の環境を大切に守るのでしょうか？それはやはり、何となく「将来がある」「永遠が存在する」という思いが人の心にはあるからです。

■イエス様はこの世に来て、この「永遠」についてたくさん語られました。

ヨハネ17章にはイエス様が「私は、永遠のいのちを与えるために来た。」(2節)と仰いました。又、「永遠のいのち」とは「神を知ること。」「主イエスを知ること」(3節)であると明確に語られました。更に、福音書を見るならば、永遠に関するストーリーがたくさん出てきます。ルカの福音書12章を読んでみましょう。「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください」と言った。すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜ

なら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」(ルカの福音書12章13節~15節)

この遺産を分けるように願った人に対しての、イエス様の返答の意味はこういうことです。それは「君たち、一体なぜそんなことで悩んでいるのか？この世での人の一生はどれほど短いものかをよく考えなさい！」そして更に続く有名な例えの中でもイエス様は語られます。『こうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』(ルカの福音書12章18節~19節)

この金持ちに対する神様の答えは『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』(20節)

パウロがテモテに言いました。「私たちはこの世に何一つ持つてこなかったし、また何一つ持って出ることもありません。」(1テモテ6章7節)クリスチャンの皆さん！本当にそう信じていますか？卒業生の皆さん！本当にそう信じていますか？銀行にどのくらい貯蓄があるかを気にしなくてもいいのです！自分の財産がどのくらいあるかなんて、そんな事を気にしなくてもいいんです！なぜなら地上の富を天国には持って行けないからです！

■私(スコット)が若いとき、アメリカの有名なチャールズ・スインドル先生の教会に行きました。

メッセージの後、スインドル先生とお交わりを持つことができ、その中で先生がこのようなお話しをされました。先生が若かったとき、ダラスにある神学校に行っていました。お金がなかったのでアルバイトをしたそうです。そのアルバイトは面白いバイトで、葬儀屋さんのアルバイトでした。牧師は何でもやるんですね。そしてアメリカでも日本と同じように、前夜式のようなことをします。その葬儀屋ではいろいろなスーツを持っていました。

亡くなった方のご遺族が貧しい場合、洋服があまりみずばらしいと恥ずかしいということで、亡くなった方に葬儀中に着せておく素敵なスーツで、葬儀が終わると、遺体にまた元の普通の洋服を着せて葬るということがあったそうです。そして、スインドル先生が卒業間近になった頃、そのバイト先で葬式をするように頼まれたそうです。しかし先生は貧しかったので、良い服を持っていませんでした。それで葬儀屋さんが、亡くなられた方に貸しているスーツを「どれか選んで着て良いよ。」と言ってくれたそうです。ちょっと気持ち良くない感じがしますが(笑)、とにかく自分のサイズにぴったりの素敵なスーツを着ました。そしてそのお葬式の説教をしました。緊張しながらも、何とか福音を語るためにリラックスしようと思い、スインドル先生がスーツのポケットに手を入れようとしていました。ところが、そのポケットは形だけで、実はポケットになっていなかったのです。手を入れようとしたけれど、ポケットがない！その時、悟りが来ました。「死んだ人は、ポケットはいらん！」・・・今日、みなさんはそれしか覚えていないかもしれませんね？(笑)。でもこれは大切な真理です。私は若いときにそれを聞いて、「なるほど…」と思いました。皆さん、天国に何も持っていくことはできないんです。イエス様はこの真理を語られる為に、違う表現を使いました。

ルカ12章33節~34節にはこうあります。「持ち物を売って、施しをなさい。自分のために、古くならない財布を作り、朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。そこには、盗人も近寄らず、しみもいためることはありません。あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあるからです。」イエス様は、あなたたちが死ぬとき、虫がついたり、錆びるような、そんな宝物を作ってはいけない。あなたは「天に宝物」を作りなさい！と言ったんです。そして、宝があるところに、あなたの思いが行きます。4、5年前にアメリカでリーマン・ショックがあり株が暴落しました。これは全世界に大きな影響をあたえました。この時、悲しいことに大勢の人が自殺してしまいました。何故？このような事が起こってしまったのでしょうか？それは宝物がウォール街にあったからです。クリスチャン！あなたの宝はどこですか？もちろん、天国ですね。ですから、そのように生きましょう。12章のたとえ話に戻ります。イエス様が最後におっしゃった言葉をもう一度見てみましょう。21節「自分のために蓄えても、神の前に富まない者はこの通りです。」英語の聖書に書いてある言葉が私は好きですね。「...rich towards God」今年に入ってからこのストーリーを読んで思いました。私は神様に対して、めちゃめちゃリッチになりたいです！アーメン？天にいっぱい宝があるようにしていきたいです！！

■今日は私の作品を持ってきました。紐です。安心して下さい。これで皆さんを縛ろうとしたりしません(笑)。

アメリカの伝道師、フランセス・チャン先生が行ったイラストレーションを見て、これはいい！と思いました。

この「紐」が『永遠』であると考えて下さい。今これは数十メートルしかありませんが、想像してみてください、この紐がずっと伸びて、ハワイまで行くんです。ハワイから南米まで。南米からアフリカに行って、アフリカから東南アジアへ、そしてこちらに戻り、もう一回まわっていく。これがずっと、何回も何回も、永遠に続くことを想像して下さい。そして・・・私たちが生きているのは、このわずかな部分です。この見えている「紐」の長さです。わずか80年、今の最高長寿の方でも115歳と言っています。115歳でもわずかな長さです。この世の中の人たちの大部分はこ

の紐の見える部分しか知らないのです。そしてこの紐の先の見える部分のことばかりを考えています。「引退してからゆっくりしよう。」あの倉を作った人と同じですね。人生の最後にリタイアして、その楽しいリタイア後の生活だけを考えて、残りの人生を全部生きている。私はそんな人生は送りたくはありません。私が生きたいのは、「永遠」です！だから「永遠」があることを信じましょう！

■「神の前に富む。」ことについて、キルケゴールという哲学者がこのようなことを言いました。

「人生は後ろを振り向かなければ理解できないが、我々は前を向いて生きていなければいけない。(“Life can only be understood backwards but must be lived forwards.”)」私はこのスローガンが好きです。これはどういう意味でしょうか？

私たちは、今までやったことを少しふり返りながら、しっかり前に進んで行くのです。私は18才の時にクリスチャンになりました。イエス・キリストと出会い十字架の元で罪が赦され、神様は私に1枚の切符を渡してくれました。その切符は永遠のいのちです。私の人生の18才のスタートから、私の後ろには常に永遠が続いています。永遠への約束が与えられています。ですから後ろが確かに決められ赦されているので、私は確信を持って前に進むことができます。皆さん！これがキリスト教の基本の中の基本です！ですけど私達はよく見失ってしまうところでもあります。

■ここで貴方に質問します！“How should we live?” 「永遠」ということがあれば、「貴方はどんなふうに生きたらいいのでしょうか？」

■1つは、「迷ってはいけません。” Don't be distracted.”

「永遠」ということを知れば多くの誘惑から守られます。世の誘惑は楽しく見えますが、私たちにはそう感じられません。永遠を知ればこの世からの誘惑の力がすごく弱くなります。「愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」(1ペテロ2章11節)この御言葉が私は好きです。なぜなら英語の聖書では“Aliens”(エイリアン)と書いてあります。私はエイリアンです！ハレルヤ！隣の人にも言ってあげましょう！あなたは本当にエイリアンですね(笑)！

私は、ハワイ人ではない！アメリカ人ではない！日本人ではない！韓国人ではない！中国人ではない！香港人ではない！私はニュージーランド人ではない！私は天国人です！！本当にそう信じますか？そうならば、この世の誘惑は全然来ません。

私は30数年前にはじめて日本に来た時、日本の一般の家庭にある悩みが全く理解出来ませんでした。日本の家庭は一般に自分の子供をどこの幼稚園に入れたらよいかを親が悩みます。でも私が育ったアメリカでは子供をどこの幼稚園に入れるかなんて考えた事ありませんでした。でもその後日本に住み、日本人の奥さんと結婚し、子どもが生まれた時、自分の子供をどこの幼稚園に入れるかで悩み、その為に子供と面接の練習までしました。なんと私も同じ誘惑に負けてしまいました。でも私たちは旅人です！ずっとここにいるわけではありません！へブル書に書いてある通り、私たちは天国という「天の御国」の事を考えています。ですから、私たちがそこに向かって進んでいくのです。皆さん、あなたの思いはどこに置いていますか？天に置いていますか、地上に置いていますか？

(更に4ページに続く)

■2番目、「Don't be discouraged.」がっかりしない。」と いうことです。

「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」(コリント人への手紙第二 4章 17節・18節)

■見えないものを見ましょう！見えるものを見ず、見えない「天国」を見ましょう！見えない「天の報い」を見ましょう！

コリント人への手紙にはこう書いてあります。「ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」(2コリント 4章 16節) 体はどんどん弱っていきます。髪の毛はどんどん薄くなっていきます。物覚えも悪くなり、子どもの名前も何だったっけ…？なんて事もあります。(笑) でもこれはしょうがありません。私たちの肉体は弱くなるのです。でも内なる私たちは日々強められてきます。「永遠」のスコットがすごいことになっていますよ！たとえ私たちが死ぬ日まで苦しんだとしても、死んだら天国です！でも神様は私たちがこの地上で必要以上に苦しむことは願っていません。神様の願いは、今、生きている間に天国の生き方をすることです。それが永遠です。ですからあなたは Heavenly Man です！天国人です！『永遠』に焦点をあてましょう！

■リック・ウォレン先生が「永遠の価値」についてお金を例に話してくれました。

例えば、世界経済を救う為に日本の経済とアメリカの経済が合併するとします。6月1日から日米は通貨1つにし、日本は「円をもう使いません。」と発表します。だから政府は「この3カ月の間にちゃんと交換しましょう。」と発表します。その情報を皆さんが今日聞いたら、すぐに銀行に行ってドルがあるうちに交換しますね。なぜですか？それは6月1日から私の持っている円が何の価値もなくなってしまうからです。これと同じように、私たちが死んだ瞬間に今持っている、今自分が持っているすべての物は何の価値もなくなってしまうのです。でも死後に価値ある報いがあります。あなたが今語る言葉が未来に報いをもたらします。あなたが今の誘惑に負けてしまわない事、それが永遠とつながっています。あなたの献金も永遠とつながりがあります。また、あなたの行動が永遠とつながりがあります。あなたが人を救うことが永遠とつながりがあります。今年に入って私はそういったことをリストアップしました。どのくらい天国に行ったら報いがあるのか？天国に行ったらどのくらいお金があるか？でも皆さん！天国に行ったら、お金はいりません！天の道路は何で出来ていますか？ゴールド(金)ですよ。お金はもはや価値はありません。

■「永遠のいのち」の一番の報いは何でしょうか？

それは天のお父様です！主イエス・キリストです！私達は神の栄光の中に入る事が出来ます！今は私達は永遠の報いについてあんまり良くわかりませんが、今の生き方がこれからの「永遠」を全部決めているのです。でも、気をつけて下さい。クリスチャンが「行い」を通して、「がんばらなくちゃ！」ではなくて、報いが欲しかったら恵みをいっぱい受け取らなければならない。そのことが大事です。アーメンでしょうか？ローマ書の2章、コリント人への手紙、創世記、黙示録、聖書の中にはそのような約束がたくさん書かれています。

■最後に、マイナスなこともあります。神を知らない人にも「永遠」があるという事実です。

でも、その「永遠」は「良い永遠」ではありません。永遠の中には「永遠の天国」、「永遠の地獄」の両方があります。すべての人がいつか主の前に立たなければなりません。裁きの時があるのです。だからこそ今しか出来ないことがあります。それは天国に行っては出来ないことです。それは伝道です。天国ではみんなもう救われているので伝道はできません。今しか出来ないのです！

■このメッセージを私の教会で分かち合ったとき、教会のある姉妹が心触れられ、まだ救われていないお母さんに電話をしました。

ちょうどその時、お母さんはテレビの番組で、天国に行った少年の話を見ていて、姉妹が電話で「お母ちゃん！天国はあるよ。お母ちゃん！私は天国に行くよ！」そして姉妹が涙を流しながら、「お母ちゃん！私と一緒に天国に行ってほしいよ。」と言ったんです。そうしたらお母さんも「私も行きたいよ。」と言いました。皆さん、お母さんはもちろんイエス様を知りませんでした、十字架の贖いも詳しく知りませんでした。でも、「天国に行きたい！」と言ったことで、心がスッと開かれました。皆さん！天国の話をもっとしましょう！「永遠」についての話をもっとしましょう！

■私の好きな映画『シンドラーのリスト』、暗い映画ですが、見た時には泣きました。泣いて泣いて目がはれました。

このシンドラーという人は実在の人物です。ドイツ人の彼は、お金持ちになりたくて、工場を作り、工場で働く労働者が欲しかったので、ユダヤ人を無給で奴隷のように働かせようとしてナチスと取引をしました。最初はただ金の為。会社が儲かり、そして国の為にもなると考えてのことでした。決してユダヤ人を助けようとしたわけではありませんでした。

彼のアシスタントはユダヤ人でした。ユダヤ人がこの工場で働けば、ナチスのアウシュヴィッツや強制収容所に行く必要がなかったため、工場で働けば死を免れるという状況でした。そのアシスタントは、シンドラーに「この人を雇ったらどうですか？」と何度も働きかけ、次第にシンドラーの心はどんどん柔らかくなっていきました。そして人を助けたい気持ちになりました。結局、戦争が終わった時、シンドラーは千数百人のユダヤ人を助けました。しかし、映画の最後のシーンで、彼はナチスのバッチを持っていてユダヤ人たちは早く逃げるようにすすめます。そして最後の別れの時、彼と奥さんが車に乗ろうとしたその時、助かった千数百人もユダヤ人のみんなが彼にプレゼントを渡しました。「シンドラーさんのおかげで私たちは今、生きている。」と。その場面でシンドラーは、「ありがとう。…でも、もっと多くの人を助けることができたはずなのに。」と嘆きます。このナチスの金のバッチで、後、2、3人のユダヤ人を救う事ができたかもしれない。この素敵なベンツを売っていたら、10人、20人ぐらいいっと雇う事ができた。もっと出来たはずなのに…！！

シンドラーという人は素晴らしい事をした人です。でも、「もっとできたはずなのに…」と言って私は死にたくはありません。「ちょっとがんばったよー。」そのような生き方はしたくないです。「良くやった忠実な僕よ。」神様にこう言っほしいです。必ず私たちは天に行きます。最後にもう一度言います。今、これだけです。「永遠」、「永遠」、「永遠」、そして「永遠」を考えて下さい！卒業生の皆さん！学生の皆さん！皆さんがここで学んできた目的は、ただ頭が良くなる為や、何とかキリスト教を作り上げる為ではありません！「永遠」を知り伝える為です！■

CFNJ 特別講義と ゲストスピーカー

●ゲストスピーカーの授業は、どなたでも無料で聴講出来ます。(自由献金制、テキスト代有料。)通常の授業も聴講が出来ます(有料)又、入学を検討されておられる方には、無料体験入学制度もありますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。



4月22日(月)~26日(金)迄

ロドルフォ・ガルサ師

アマスタッド・デ・モンレー教会・エピセントロ聖書学院創設者・学院理事長

1・2時間目
(午前8時45分~10時55分)



5月1日(水)・2日(木)

富田 慎悟 師

新宿シャローム教会・ユースバスター 24 時間365日の祈りの家のディレクター。今年のYFN ゲスト。

1・2時間目
(午前8時45分~10時55分)



5月13日(月)

ヴァーナー・ギット 師

工学博士、スイスのバーゼル・国家独立神学大学の専任客員講師、ドイツ連邦理工学研究所所長。今回のテーマ「科学者として、なぜ聖書を信じたのか？」1990年「情報工学シンポジウム」設立。毎年150名以上が参加。著書「初めに信じてから」。

2・3時間目
(午前10時~12時まで)



5月16日(木)・17日(金)

宇佐美 正海 師

創造論研究会(ジェネシスジャパン)名誉会長 / 医学博士 / 水戸第一聖書バプテスト教会牧師 / 宇佐神カトリック院長 / 東北大学医学部卒

2・3時間目
(午前10時~12時まで)



5月31日(金)

キース・バンク 師

CFNJ 講師。インターナショナル・クリスチャンチャーチ・ユース英語担当牧師、プロドラマー。

1・2時間目
(午前8時45分~10時55分)



6月3日(月)~5日(水)

カレン・バーンズ 師

ファイヤー・フォー・ザ・ネーションズ代表、ユースおよびCS(キッズ・ミニストリー)牧師、賛美リーダーとしての教会の働き、また慈善活動団体の働きなど、30年以上にわたる子どもミニストリーの活動を展開。世界各国でストリートチルドレン保護、孤児院、教会開拓、宣教、伝道のミニストリーに従事する。現在はテネシー州レバノンの「Hunter's Point Celebration Center」ミニスター。ご主人のアレンさんは結婚生活32年。すでに家庭を持つ2人の娘さんと5人の孫に囲まれた「疲れを知らない」おばあちゃんとしての顔も。

2・3時間目
(午前10時~12時まで)

2013年度1学期 授業カリキュラムスケジュール

(2013年4月15日(月)~7月5日(金)迄)

1・2年コース (必修科目) (敬称略)

	月	火	水	木	金
1 AM8:45~9:40	旧約聖書概論 I 田中 信矢	所約東の地を I 三浦 雅範	世界教会史 I 鍛冶川利文	使徒の働き I 田中 博	聖書 日本人の生活と 松原 望
2 AM10:00~10:55					
3 AM11:05~12:00	信仰の土台 G・グドール	旧約聖書概論 I 田中 信矢	信仰の土台 G・グドール	神の国に於ける賛美 長沢 崇史	イエスキリストの生涯 I J・ジャンセン

アルプスコース (必修科目)

1 AM8:45~9:40	宣教と伝道 R・グドール	セリカウ グ I 小栗 昭夫	弟子訓練 金 聖圭	ヨブ記 I 石田 吉男	霊的戦いの学び 岡田 好弘
2 AM10:00~10:55					
3 AM11:05~12:00	近郊の牧師	伝道のマスタープラン 鍛冶川利文	伝道のマスタープラン 鍛冶川利文	聖書釈義 I 松原 望	聖書釈義 I 松原 望

選択科目

午後 PM13:00~15:00	タンバリンクラス 平石有紀子	英語クラス G・グドール	ドラムクラス 田中 満矢	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 鍛冶川 紀子
	ボイストレーニング 新井田路子		ピアノクラス 新井田路子		

平凡な人生の価値

熊本県 大津キリスト教会牧師
・学院顧問

米村 英二 師

「あなたはこの地に、滞在しなさい。
わたしはあなたとともにいて、
あなたを祝福しよう。」（創世記 26 章 3 節）

平凡な人生の価値

■イサクの人生は、父アブラハムのように壮大でもなく、その子ヤコブのように波瀾に満ちたものでもありませんでした。彼の人生を表わす言葉の一つを選ぶとすれば、それは「平凡」です。

イサクには冒険的、開拓的、独創的な面は少なく、家庭的で穏やかで、日常的な面が多くありました。これといった特色のないのが特色と言ってよいでしょう。それにもかかわらず、神が、ご自分のことを「イサクの神」と呼ばれているのは、イサクの人生や生き方に、ある大切な教訓が含まれているからに違いありません。

■ではその教訓とは何でしょうか。神が平凡な人生を決して軽んじられないという事実です。アメリカ大統領リンカーンは、あるとき言いました。「神は凡人を愛される。そうでなければ、これほど多くの凡人をお造りにならなかったに違いない」と。私たちが平凡を軽んじることはできません。というのは、われわれの人生の大部分が平凡な日々の連続であるからです。

イエスは言われました。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう」と。小さなことを長く忠実にやりとげた者だけが、大事な局面に立たされても、それをなんとかやってゆけるのではないのでしょうか。多くの人は思います。大きな場面で仕事のできる人は、小さな場面なら、もっと簡単にやれるだろうと。でも実際は反対です。大きな場面では、人びとの注目があります。賞賛があります。だから失敗しないように全力を尽くすでしょう。ところが小さな場面ではどうか。注目もなければ、賞賛もない。だからつい軽んじて自分のほんとうの姿を露呈してしまうのです。

■牧師の場合も、外では謙遜で柔和にふるまえても、家庭ではそうでないということが少なくありません。ある教会で説教をしたら、それを聞いた信徒の方から感謝の手紙が届きました。「米村先生が語ってくださったメッセージは、魂の奥に届き、自然に涙がこぼれていました。先生は静かにごく自然に語られるのですが、その話があまりにも正直で、威張ったり、良く見せようとさならないので、聞く者の胸を打ちます。まだキリスト教ではない夫も、さすがに

米村先生のメッセージには真剣に耳を傾けて、ときには天井を向いて大笑いしておりました。先生の著書『健やかな人生の土台を築く』は、二人の息子たちに『母の遺言として』と裏表紙に書いて渡しました。きっとお嫁さんも読んでいつかキリスト教になってくれたらと祈っています。」と、まあ、そんな内容の手紙でした。それを読んだ妻は言いました。「あなたの普段の生活とはずいぶん違うわね」外での働きはよくできて、もっとも身近な妻や家族に対してはどうか。平凡な日々の生活をどう生きるか。そのほうがはるかに日曜日の説教より難しいのではないのでしょうか。

■イサクの生涯の特徴は、その平凡な日々の生活にありました。父アブラハムのように遠くに目を注ぐのでもなく、その子ヤコブのように野心に満ちてもいません。彼の目は、ただ日常の身近な今日の義務に注がれていたのです。イサクの物語は、大きくわけて六つの部分からなります。彼の誕生、モリヤの山での犠牲、結婚、父アブラハムの井戸を再び掘ったこと、ペリシテ人の王アビメレクとの交渉、そして最後は息子ヤコブとエサウの祝福です。これらすべての場面で、イサクは自ら行動を起こすことはありませんでした。いつもだれかに動かされ、彼の主導権が行使されることはなかつたのです。

では彼がやったこととは何だったのでしょうか。父アブラハムが成し遂げたことの模倣であり、その継続です。単調な人生かもしれませんがそれが「後継者」の仕事です。しかし歴史における重要な変革は第一世代だけによって成し遂げられたものではありません。もちろん第一世代の働きは大きいでしょう。また多くの場合、独創的です。しかしそれが歴史に残る変革となるかどうかは、常にその後継者にかかっています。後継者は、その変革を定着させ、安定させなければなりません。イサクは、そういう意味では、父のものをよく受け、それを息子によく伝えたのです。それがイサクが成し遂げた最大の働きであったと言ってよいでしょう。ある歴史家は言っています。「創始者たちの成功について歴史が下す裁断は、それが輝かしい勝利になるか、それとも単なるエピソードになるかは、その後継者だいた。後継者とは、その変革を定着させ、安定させなければならぬ世代である」と。後継者は何も新しいこととはしないでしょう。しかし創始者が始めた変革を継続し、それをもとに戻そうとする保守的力や伝統と闘わなければなりません。それらに打ち勝って初めて次の世代へ継承が成功するのです。あの偉大なパウロにも独創はありませんでした。彼はイエスの後継者です。イエスの生涯とその死が、どのような意味をもつかを広く人類に知らせ、キリスト教を世界宗教にしたのはパウロです。パウロという偉大な後継者がなかったら、創始者であるイエスの働きがこれほど美しく人類史に輝くことはなかったでしょう。

後継者の仕事

■すでにご存じのように、私自身も、この教会の創始者ではありません。後継者です。この大津の町で伝道しようと思ったのはニコラス宣教師です。それは彼のビジョンであって、私ではありませんでした。もしチャックさんが来なかったら、この教会はなかったでしょう。主はイサクに「エジプトへは下るな。わたしがあなたに示す地に住みなさい。あなたはこの地に、滞在しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう」と言われましたが、ニコラス宣教師は私にこう言い残して大津を去ってゆきました。「もしよい働きをしたければ、次々とやってくる新しい信仰運動に惑わされてはいけません。むしろ自分が遣わされたこの場所にとどまり、ただ自分に与えられた群れに心を留め、全力をつくして彼らのために仕えなさい。それがおまえのなすべき最善の仕事だよ」ヨシュアがモーセの命令から右にも左にもそれなかったように、私も、おおかたその助言に従って 40 年の伝道を続けてきたように思います。

■遅々として進まない地方の伝道が苦しくなって、新しく起こった信仰運動に夢中になってゆく牧師たちも少なくありませんでした。しかし私の心は揺るぎませんでした。ニコラス宣教師の助言に従って地道な伝道を重ねてきたのは間違いではなかったと今しみじみ思います。イサクが、アブラハムの井戸を掘り直したように、私もまた、宣教師が掘った井戸を掘り直してきたのです。かつて流れていて、その後、流れなくなったものを流れるようにする。それが後継者の仕事なのだと思えます。

■そこに独創はありません。宣教師の伝道で集まって来たのは高校生でした。が、進路、進学の時期がくると、その多くが教会を離れ去ってゆきました。その後、私たちがこの町に残って再び伝道をするようになったとき、まずとりかかったのはやはり高校生伝道だったのです。宣教師がこの町で最初に友人となったのが Y さんで、その Y さんから建物を借りて伝道を始めたので、私たちが Y さんの好意にあずかり、こうして Y さんの土地に新会堂を建て、伝道を続けています。種はみな宣教師が蒔いたものです。私はその成長のために水を注いだけです。この教会の特色と思われるもの、たとえば牧師を先生と呼ばないこと、イースターやクリスマスなどの宗教行事を守ることが教会の中心でないこと、献金袋を回すこともなく、匿名の自由献金という方式をとっていること、複雑な組織を持たず、多くのことが自発的な奉仕によって行なわれていること、その結果、教会が、規則にとらわれず、そのときの必要に応じて適切な判断ができ、すぐさま行動に移れることなど、それらはどれも私の発案ではありません。ニコラス宣教師や、その頃、すでに関東地域で伝道をやっていた彼の友人宣教師たち、そして彼らを指導したジャック・ロッカーの思想的影響から生まれ出たものです。私はそれらを彼らから学び、踏襲しているにすぎません。しかしアブラハムが、継承者イサクによって民族の祖としてその名を残したように、ニコラス宣教師も、私が彼の継承者になることによって、彼の日本滞在は意味を持つことになったのではないのでしょうか。

■50 代に発病したニコラス宣教師のパーキンソン病はかなり進んでおり、奥さんのペギーさんがその看病にあたっておられました。10 年ほど前でしてでしょうか、お見舞いの意味もあっておふたりをアメリカに訪ねたとき、ペギーさんは、自分たちの通う教会の牧師を招き、私たちと会う機会をつくってくれました。私はその牧師に会うと、すぐにこう自分を紹介したのです。「私は、ここにおられるチャックさんとペギーさんが、30 数年前に日本で始められた教会を、その後、ずっと牧会している者です」その言葉を聞いたペギーさんはどっとこみあげてくる涙を抑えることができませんでした。そして言いました。「私たちは彼らの忠実さに、どんなに感謝していることでしょう」私は、ペギーさんの涙を見て、彼らのあと大津に残ってその働きを継続してよかったと心から思ったものです。イサクは、アブラハムが始めたこと以外に何もしなかったでしょう。しかしアブラハムが始めた働きを継承し、それを定着させ、安定させました。それが二代目の仕事であり、イサクのやったことです。私のやったことも同じです。が、大津での働きは三代目までうまく継承されるでしょうか。それが今、私たちの教会がかかえている一つの大きな課題です。

イサクの服従

■でも、イサクの場合、後継者問題はそれほど簡単ではありませんでした。彼にはふたりの息子がいました。兄のエサウと弟のヤコブです。兄のエサウは野の人です。活動的で、獵が得意でした。イサクは鹿の肉が好物でしたから、エサウは獵のたびにそれを携え、父イサクを喜ばせたことでしょう。弟ヤコブはというと、家庭の人です。父イサクが、どちらかといえば自分に似ているヤコブより、自分とは違う、活動的で能動的なエサウ、そして彼のもつ野性的な雰

囲気に心をひかれたことは容易に想像できます。しかも彼は長男です。それだけでもイサクがエサウを自分の後継者としようとしていることはだれの目にも明白でした。ところがイサクはその点で神のみこころを見誤ってしまうのです。後継者問題で重要な役割を演じたのはイサクの妻リベカでした。リベカは弟ヤコブのほうが信仰的家系を継ぐのにふさわしい人物であると早くから見抜いていました。

■ヤコブは父イサクが想像していた人間とはかなり違っていました。彼は、実際にはもっと主体的で、目的のためなら果敢に戦うことのできる人物だったのです。その点、彼の妻リベカの洞察と判断のほう为正しかったと言えます。イサクの肉体が衰え、いよいよ後継者の任命とその祝福の時が近づいた時、イサクはエサウに言いました。「見なさい。私は年老いて、いつ死ぬかわからない。だから今、野に出て行き、私のために獲物をしとめて私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て私に食べさせておくれ。私が死ぬ前に、私自身が、おまえを祝福できるために。」エサウはすぐに鹿の肉を得ようと獵に出ました。そのすきに母リベカはヤコブに子やぎ二頭を取ってくるように命じ、それでイサクの好む料理を作り、ヤコブに持ってゆかせ、目の見えないイサクから、祝福をだまし取らせるのです。まもなくエサウが帰って来て、鹿の料理を差し出し、祝福を求めると、イサクは言いました。「おまえはだれだ」「私はあなたの子、長男のエサウです」それを聞いたとき、イサクは激しく身震いして、こう言いました。「では、いったい、あれは誰だったのか。獲物をしとめて、私のところに持って来たのは。おまえが来る前に、私はみな食べて、彼を祝福してしまった。それゆえ、彼は祝福されよう」エサウは父の言葉を聞くと、大声で泣き、悲痛な声で父に嘆願します。「私を、お父さん、私も祝福してください。」が、イサクは、自分の言葉を取り消しませんでした。「私は彼を祝福してしまった。それゆえ、彼は祝福されよう」不思議です。なぜイサクはヤコブへの祝福を取り消さなかったのでしょうか。イサクは、まふと妻とヤコブの奸計（かんけい）にやられたではありませんか。

■イサクはエサウを祝福したいと思い、実際にそうしたつもりでした。ところが自分が祝福したのはヤコブだったのです。それがわかったとき、彼は愕然としました。しかし抗議はしませんでした。ただちに悟ったのです。そこに神の強い意志が働いていたことに。リベカやヤコブのやったことはたしかにゆるされるべきことではないでしょう。しかし理由は何であれ、自分がエサウではなくヤコブを祝福してしまった、そのことを変更する権利はないとイサクは考えたのです。人生には、自分の人間的な愛や個人的な感情だけでは、どうしても押し進められないものがあります。イサクはそれを知っていました。そこで静かに神の意志に服従したのです。

■私たちの人生にも、自分の思うようにならないことが多くあるでしょう。そんなとき、それらのすべてに神の御手を認めることができたなら、なんと私たちの心は平和でしょう。フランチェスコも服従の人でした。彼は、人生に起こるすべてを、そして太陽も月も、風も火も、自分の兄弟、姉妹として受け入れました。自分の死期の近いことを医者に告げられると、彼は腕を広げてこう言ったのです。「よくこそ来たれ、姉妹なる死よ」神や宇宙、人生に対する彼の態度は、どんな場合も服従でした。そこに彼の解放と喜びの源泉があったと思われまふ。イサクの生涯の特徴もまた服従にありました。彼はだまされてヤコブを祝福しました。にもかかわらず、「私は彼を祝福してしまいました。それゆえ、彼は祝福されよう」と言って、自分の言葉を変更しなかったのです。そこに絶対的の神の意志を見たからです。この服従の態度にこそイサクの信仰があったと言えるでしょう。■

※学院で教えられた米村師の講義のCD、DVDを販売しています。
詳しくは学院事務局までお申し込みください。

CFNJ聖書学院制作販売 朗読CD販売!

CFNJ聖書学院副学院長
朗読者／鍛冶川紀子



聖書のみことば朗読

「神のみことばのいやしのか」



● 定価 / 1枚 (CD) 1,000 円
(送料別)

※サンプルは、下記のページで視聴することができます。

<http://www.cfnj.com/media.html>

感動の証し朗読

「神の指がふれた時」

不治の病と言われた難病である、筋ジストロフィー症からの奇跡の癒し



● 定価 / 1枚 (CD) 700 円
(送料別)



ガートルード・タイサー夫人が体験した、神の驚くべき御業!

2012年度

卒業・修了・按手式

■2013年3月8日(金)午前9時より、横浜グレイスバイブルチャーチの主任牧師であるスコット・ダウマ師をゲストにお迎えし、卒業・修了・按手式が執り行われました。この日9名の卒業生が学院から旅立ちました。神の国の働き人として、その遣わされた所で忠実に歩む事が出来るように、お祈り致します。



アルプスコース卒業の「伊藤銀英姉」が教職者の按手礼を受ける。



卒業生のご家族との記念写真



アルプスコース卒業
篠原 めぐみ

■神様の恵みによって卒業の日を迎える事ができました! 何度も「無理かもしれない」と思いましたが、弱さの中にいつも神様の力強い御手がありました。この一年で、自分の中には神様が用いるような理由一つもなく、神様が私を用いる時に、ただ従順に従うだけだと知りました。折り支えて下さった皆さんに感謝! 詩篇二七篇四節



アルプスコース卒業・按手授受
伊藤 銀英

■ハレルヤ! 今回CFNJでの学びを終え卒業出来ることを感謝します。神様は大きな恵みを持って導いて下さいました。主に栄光、主に感謝です。今年はお正月に札幌に来て20年目を迎えます。そして結婚10周年目、学院卒業。わくわくする年になりました。日本で仕える事を感謝し、魂の救いのために仕えたいと思います。学院長、紀子先生、グドール先生、講師の先生、スタッフ、学院生の皆さんにも心から感謝します。神様の豊かな祝福をお祈りします。



アルプスコース卒業
全 東 夷

■あつという間に一年が過ぎてしまいました。が、「学びと安息」という素晴らしい一年でした。いつも共に祈り、賛美し、礼拝した仲間たちがきつと恋しくなるでしょう。日本のリバイバルのためにCFNJ聖書学院が祝福され、守られるように、そして、次の世代のための献身者がたくさん掘り起てされるように祈り続けます。



1年コース修了
山岸 まりや

■学院での学びは恵みと喜びに満ち溢れた日々でした。聖書を学べば学ぶほど主の愛の大きさを知り、主の偉大さは計り知れない事を教えられ、主と共に歩む恵みを深く感じました。学院で過ごした二年間は主が与えて下さった癒しの時だったと思います。このように素晴らしい時を与えて下さった主に心から感謝しています。これからの人生を主に捧げて歩んでいきたいと願っています。温かく励まし支えて下さった先生方、スタッフの方々、友人の皆さんに本当に感謝しています。



2年コース卒業
グドール 愛希

■二年前、高校を卒業してすぐに、CFNJに入りました。神様を知るために入学しました。これからも、たくさん神様を知りたいと思います。私には神様が必要です。神様が呼ぶときに、しっかりと「はい。私はここにいます。」と神様の御声に耳を傾けることができる神様の娘になりたいと思います。神様にすべての栄光をお返しします。



2年コース卒業
早川 友子

■ハレルヤ! この素晴らしい学院で学ぶことができた恵みを心から感謝します。ここで学ぶ中で、私は、神様が今も生きておられ、私たち一人一人に個人的に親しく語り、導いて下さる方であることを知る事ができました。そのことを学べたのは、本当に大きな恵みです。主に、そして学院の皆様から感謝します。



2年コース卒業
竹内 聡

■この学院で多くの「恵みを受けました。その「恵み」とは、取られ、取られ、取られた、ということとです。私の誇り、私のプライド、私の愛し、握ってきたもの、すべてではないですが、主は取られました。その「恵み」によって私は、身軽になり、今まで以上に大きく、高く飛ぶことができるようになりました。すべての「恵み」を感謝します。



1年コース修了
杉浦 みちる

■あつという間の二年間でしたが、祝福と恵みのシャワーを受け続けた二年でした。人知を超えた主の御業を数え切れないほど体験し、家族みんなの信仰が強められ、主を知ることと求める生活の時に与えられたことは私たちの財産、宝です。私たち家族のために祈り支えて下さった多くの方々に心から感謝します。



2年コース卒業
杉浦 義也

■主の御名をほめたたえます。主の恵みいっぱいであつという間の二年間でした。この学院に入学するためにたくさん困難な道を通りましたが、こうして卒業を迎えて、全てを益として下さる神様の大きな計画を体験することができました。これからの人生も神様がすべてを益として下さるべくと固く信じます。みなさんのたくさん御執り成しのお祈りありがとうございます。

2012年度3学期からの 新入学生のご紹介

2013年1月15日(火)、2名の
新入生が新たな学びをスタート
しました。これからの学院生活
の為に祈り下さい。



● 聴講生 / 山口 雅子
主を証しするには熱意だけでは足りず、御言葉の正しい理解がない為、的を外した執り成しになる怖さを痛感し、聖書の学びを願っていました。学院での賛美時の主の臨在、主の愛と主への愛を伝えて下さる講師の方々、その御言葉の教えに目が開かれます。聴講生としての学びの一步を導いてくださった主に感謝を捧げます。



● 一般生 / 桜谷 彰子
ハレルヤ! 主に感謝いたします! 皆様のお祈りのおかげで聖書学院に在ることを感謝します。私の一番の目的は神様の事を学びながら癒されることです。そして聖書をもっと詳しく知りたいです。聖書のことばはわからない事だらけの私ですが、よろしくお願いたします。

心よりあなたをお招きします!

今年も CFNJ 聖書学院を会場に、I.S.M (短期国際宣教学校) が、開校されます。

「短期国際宣教学校」のお知らせ!

ISM

「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」

●期間 / 2013年7月16日(火) ~ 8月30日(金)

■ゲストスピーカー (敬称略)

(7月16日~8月30日迄の7週間、講義時間8時45分~10時55迄)



Dennis Balcombe 7/16~7/19
デニス・バルカム
リバイバルチャイニーズ・ミニストリーズ・インターナショナル(RCMI) 創立者
〈テーマ〉
「クリスチャンのミッション、聖霊の力による伝道と教会開拓」



Kazuhiko Yoshida 7/22~7/26
吉田 和彦
YWAM 日本代表、YWAM 沖縄ディレクター兼任、北摂賛美教会協力牧師。
〈テーマ〉
「宣教における関係作り」



Gerald R. Chester, Ph.D 7/29~8/2
ジェラルド・チェスター
ストラテジーズ@ワーク社 代表取締役社長
〈テーマ〉
「宣教としてのビジネス」



Mark Schultz 8/5~8/9
マーク・シュルツ
メキシコへの宣教師
〈テーマ〉 「宣教と文化」

東北アウトリーチ
(宮城県南三陸町) 8/12~8/16



Takashi Fukuda
福田 崇 8/19~8/23
国際ウイクリフ同盟霊的大使
〈テーマ〉
「神の愛の大河に流されて」



Elmer Inafuku 8/26~8/30
稲福 エルマ
新宿シャローム教会 牧師
〈テーマ〉
「現代世界宣教」と「オメガ伝道」

William and Autumn Parsons ISM 校長
ウィル&オータム・パーソンズ

■ウィルとオータム・パーソンズはモンタナ州ヘレナにあるラスト・チャンス・チャペル教会で7年間仕えました。2010年にラスト・チャンス・チャペル教会の牧師と CFNJ 聖書学院と協力して、北海道石狩市に ISM を始めました。今年二人はそのビジョンを拡大し、テキサス州サンアントニオにスクール・オブ・ミッションズを始めました。



■特色・内容

- 世界各地のベテラン宣教師や牧師が登場します。
- 様々な文化の人々との出会いがあります。
- 地域(札幌周辺)の教会で仕えるチャンスがあります。
- 毎朝のワーシップタイム。
- 週末の伝道活動に参加。
- 東北被災地に行き、救援活動、及び、伝道活動に加わることができます。

■期間・費用 ※詳しくは /http://www.cfnj.com/ism

- 期間 / 2013年7月16日(火)~8月30日(金)
- 費用 / ・授業料 / 56,000円 ○部分参加費 / 1 講義単価 / 800円
- ・宿泊費 / 54,000円 ○アウトリーチ参加費 / 35,000円
- ・食費 / 23,000円 (希望者のみ)
- ・合計 / 133,000円

■専任講師 (月曜日~金曜日の1週間)

- | | |
|--|--|
| <p>Yoshihiro & Rumiko Okada
岡田好弘・留美子 / 「宣教的結婚と家庭」</p> <p>Masanori Miura
三浦 雅範 / 「約束の地を所有せよ」</p> <p>Kiyonori Lena Sakamoto
坂本清憲・麗名 / 「伝道」</p> | <p>Will Parsons
ウィル・パーソンズ / 「世界宣教の展望」</p> <p>Jerry Jantzen
ジェリー・ジャンゼン / 「霊的戦い」</p> |
|--|--|

(上記の講師以外も登壇します。尚、講師の都合により授業が変更になることがあります。詳しくは事務局までお問い合わせください。)

※申し込み方法は/ISMウェブサイト (http://www.cfnj.com/ism) より、提出書類 (NO.1~NO.5) 短期入学の方は、NO.6のみをダウンロードして、必要事項をご記入の上、学院事務局まで郵送、又は、Emailにてご送付下さい。ご不明な点がございましたら学院事務局までお問い合わせください。

I.S.M. Christ for the Nations Japan International School of Missions
I.S.M. 短期国際宣教学校
クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン・インターナショナル・スクール・オブ・ミッションズ

今年もやります! ユース・フォー・ザ・ネイションズ!

YFN

GOD LiNK

つながる、ツナガル、繋がる。

GUEST (敬称略)



富田 慎悟 Shingo Tomita

新宿シャローム教会 / ユースパスター
新宿シャローム教会のユースパスターとして複数の礼拝をリードし、現在は24時間365日の祈りの家SHOP(Shinjuku House Of Prayer)のディレクターも務めている。また、日本各地の若手の牧師達と祈りのネットワークを持ち日本各地で祈り会を行っている。



中山 有太 Yuta Nakayama

東北中央教会 / 音楽主事
沖縄生まれ福岡育ち。中学生の時からワーシップリードを始め、高校生の時から作詞作曲を手掛ける。以降、教会、ライブハウスなど様々な場所でワーシップをリードし、ワーシップリードセミナーなどで用いられる。拡大宣学院卒。現在、東北中央教会音楽主事。



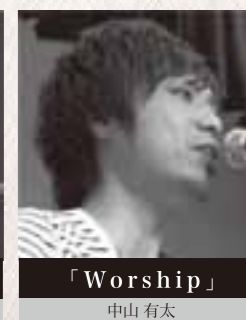
GOD LiNK

つながる、ツナガル、繋がる。
●2013年5月3-5日 ●CFNJ聖書学院

分科会 (敬称略)



「ユースリーダーセミナー」
益田 結



「Worship」
中山 有太



「恋愛セミナー」
長沢 崇史



「祈り」
富田 慎悟

5/3(金)		5/4(土)		5/5(日)	
9:00~10:00	受付	7:30~9:30	朝食 でぼーしょん	7:30~9:30	朝食 でぼーしょん おそうじタイム
10:00~12:00	ICE BREAKER アイスブレイク	10:00~12:00	分科会	10:00~12:00	GOD LiNK③
12:00~14:00	昼食	12:00~14:00	昼食	12:00~14:00	BBQ!
14:00~16:00	宝探し TREASURE HUNTING	14:00~16:00	逃走中 リベンジ	14:00~	解散
17:30~18:30	GOD LiNK①	17:30~18:30	GOD LiNK②		
18:30~21:00	夕食	18:30~21:00	夕食		
21:00~21:30	分かち合い	21:00~21:30	分かち合い		
21:30~23:00	入浴/就寝	21:30~23:00	入浴/就寝		

日時 / 5月3日(金)~5月5日(日) 場所 / CFNJ聖書学院

- 【参加費】 6,600円(2泊3日・食費含む) / 1,500円(参加登録のみ)
※宿泊定員に限りがありますので、お早めにお申し込み下さい。宿泊は寝袋の持参をお願いします。マイ枕・マイ布団・マイマット持ち込みOK!
- 【申込方法】 参加申込書をFAXで送信後、参加費合計額を下記の口座へお振込ください。【4/18(木)締切】
《振込先(郵便振込口座)》[加入者]ユース・フォー・ザ・ネイションズ [口座番号] 02740-9-45149
- 【主催・企画】 ユース・フォー・ザ・ネイションズ(CFNJ聖書学院・事務局内)
- 【協力教会】 ICF教会、旭川ナザレン教会、岩見沢シオンキリスト教会、カナンプレイズチャーチ、グレイスバイブルチャーチ札幌、札幌グッドアワー教会、札幌クリスチャングループ、札幌新生キリスト教会、北斗チャペルキリスト教会、穂別キリスト教会、森福音キリスト教会(50音順)

〈YFNとは?〉ユース・フォー・ザ・ネイションズ(YFN)は、1996年に各教会の若者たちの自発的な呼びかけにより始められ、1998年からはCFNJ聖書学院の主催の元で進められてきました。その名の通り若者たちが建て上げられイエスの弟子となり、世界を変えるチャレンジャーとなることを励ます動きです。

お問い合わせ / TEL(0133)74-1341・1342 FAX(0133)74-1343 〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
公式WEBサイト http://yfnjapan.com 参加申込書はWEBサイトからもダウンロード出来ます。

「定期献金のお願い」

いつも聖書学院の働きを覚え、祈りと献金によって支援して下さることを心より感謝いたします。今年の会計報告にあります通り、主の絶大な恵みとみなさまのあたたかいご支援とにより、すべての必要が満たされ、借金が一円もなく、すべてが備えられました。ハレルヤ！



学院の運営は、学生の授業料や寮費は運営維持のための費用全体の約30%で、残りの必要は神様の大きな祝福と、支援して下さる諸教会や個人の方々の惜しみない献金によってまかなわれています。

学院では、現在、灯油の高騰などにより、大きな水光熱費を月々支払わねばならない状況にあり、物価の上昇などに伴い学院運営維持費も徐々に増加しています。それに加えて、今年は学生数が昨年より減り、米国からの献金も大幅に減ります。どうぞ、北海道、そして日本全国における神の国の前進のために、CFNJ 聖書学院の毎月の運営維持を覚えて、特別にお祈りくださるよう、また、ご支援くださいますようお願いいたします。

学院への献金はそのまま、御国への投資です。世の中には様々な投資がありますが、リスクが伴い、大きな損をすることもあります。しかし、御国への投資は失敗に終わることは決してありません。必ず永遠の実を結びます。福音を宣べ伝えることを学んだ学生たちが出て行って、魂を永遠の命に導き、日本のリバイバル、さらには世界宣教を支える屋台骨を担う働きへと導かれるのです！どうぞ御国の前進のために、学院における御国の働きに投資することを覚えてください。そして続けて学院運営維持献金のために祈り、支えてくださることを心よりお願いいたします。

CFNJ 聖書学院学院長
鍛冶川利文

※定期的、継続的に献金をして下さる方で、ゆうちょ銀行総合通帳（旧郵便貯金ばるる）をお持ちの方には、『自動送金サービス』が便利です。一度、申し込んでいただきますと、毎月定額が自動的に送金されます。詳しくは事務局にお尋ねください。

2012年度CFNJ会計報告（2012年1月～12月）

収入		支出	
前期繰越	5,915,398		
USA献金	17,588,934	給与手当	19,288,960
団体献金	3,393,600	謝礼金	2,433,350
個人献金	3,056,082	対外献金	449,000
授業料収入	4,936,700	水道光熱費	5,925,693
寮管理収入	7,406,900	旅費交通費	1,393,446
食費収入	2,154,930	印刷費	650,353
その他の収入	1,146,302	通信費	1,303,841
		消耗品費	1,419,016
		火災保険	273,680
		修繕・維持費	1,752,260
		食費(材料費)	2,276,750
		広告費	244,069
		備品費	600,000
		その他の支出	1,798,947
		支出合計	39,809,365
収入合計	45,598,846	次期繰越	5,789,481
	45,598,846		45,598,846



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
●e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

